

## ミニトマト（表現） 神戸市立小東山幼稚園（兵庫県神戸市）

【4歳児】

幼児が表現したことを保育者が温かく見守り、十分に受け止め、心の安定を図る事例

読み取り

<実践事例集 vol.5 P23 に5歳児の事例があります>

### ミニトマトの苗植え 5月14日

一人一鉢にミニトマトの苗を保護者と共に植えた。次の日から毎日水をやり、世話をする。

### 大変だ！ミニトマトのはっぱが黄色くなって！ 5月28日

ある日、ミニトマトの葉が黄色くなり、元気がなくなってくる。幼児もそれに気付き心配そうに見る。「水が足りないのかな」「お腹すいてるのかな？」と友達同士で話す。保育者は水のやりすぎだったと気づき、幼児に水をやることを制限するように話す。また、栄養が足りない事も原因と考え、幼児と一緒に土や肥料を足す。

その後ミニトマトは元気を取り戻した。

一人一鉢しかないものなので、保育者は枯らすわけにはいかないという焦りがあり、「なぜだろう」「困ったな」と幼児が考える時間をもたせずに水やりを制限した。また、幼児と追肥したものの、幼児自身が自分で気づき、行動したのではなく保育者が一方的に提示してしまった。今回、幼児の心は動かされず、自分から考えたり調べたりする機会を保育者が奪ってしまったと反省した。

### ミニトマトの花の色は黄色なんだね

「水のやりすぎは良くない」と知った子どもたちは「水のやりすぎはミニトマトがお腹壊すで」と、水の量を加減しながら水やりをするようになった。花が咲いたとき、「ミニトマトの花は赤じゃなくて黄色やったんや」と話す幼児がいた。

また、花が枯れた後に付いた小さな黄緑のミニトマトを見て「ミニトマトの赤ちゃんや！」「花が枯れたら、ミニトマトができるんや」と発見を知らせる幼児がいたら、それを聞いた他の幼児たちも「A君のも、赤ちゃんついてるで」「この花、全部ミニトマトになるんかな？」とワクワクして話していた。

### 僕の（表現している）ミニトマト食べて！ ～身体表現～

「ここは畑だよ。みんなはミニトマトだよ。さあ出ておいで」と保育者が言うと保育室の床の上にまるまって出て来た幼児、腕をミニトマトの枝に見立てて手の平にたくさんのミニトマトがなっているところを表現する幼児、腕を頭の上で輪にしてミニトマトを表現する幼児がいた。「まだ、緑だから食べれません」「もう、赤くなったよ。先生食べて！」などと口々に言っていた。保育者が「お日様に照らされてピカピカ輝いてるね」「美味しそう」と言いながら幼児がなっているミニトマトを収穫した。



しかし、中にはずっと緑のままのミニトマトになっている子もいたので尋ねると

「もっと水が飲みたいねん、先生ちょうだい」と、つぶやいた。保育者が「いっぱい飲んでね」とジョウロで水をやる動きをすると、ミニトマトになっている幼児に笑顔が見られ「赤くなった」と嬉しそうに話した。

ニコニコしながら保育室をのぞいていた5歳児に保育者が「美味しいミニトマトだよ。食べに来て」と声をかけると、5歳児は4歳児の手や頭から赤いトマトを収穫して食べていた。4歳児は「こっちにも、まだまだなってるよ！とって！」「食べて！」と呼んでいた。



自分がミニトマトになることでミニトマトの気持ちになって思いを伝えたり、保育者に食べてもらいたいという気持ちでミニトマトになったりしていた。自分の思いを保育者や友達を受け入れ、その思いに対応してくれたことが嬉しく、満足感を味わっている。

5歳児に優しく収穫してもらったり、「美味しい」と言ってもらったりしたことが嬉しくて、ミニトマトになって喜んでいる。

### 顔に水がかからないようにね

身体表現をした次の日、ミニトマトに水遣りをしながら「お顔（ミニトマトの実）に水がかからないようにしないとね」「美味しいお水ですよ」と話しかける幼児がいた。

ミニトマトと自分を照らし合わせながら思いやりの言葉をかけている。自分がミニトマトになり、以前よりミニトマトに親しみが湧いたのだろう。

僕のミニトマトこんなんだよ ~ 絵画表現 ~

ねらい 自分の見つけたミニトマトを描くことを楽しむ  
準備物 八つ切り画用紙、クレパス



赤いミニトマトがいっぱい！  
これ、お母さん。

T:お母さんと一緒にと  
って、食べたんだね。



いっぱい  
つながって  
できてたよ！

T:ほんと、満員  
電車みたい！

僕のトマトも  
いっぱいできたよ

T:ミニトマトの  
鉢を上から見た  
ところだね。



やったあ！

僕のトマトも  
いっぱいでき  
たよ

T:お日様もトマト  
を赤くしてくれ  
たんだよね！



T:わあ、バンザイして  
る。嬉しかったね！

幼児は自分たちが大切に育ててきたミニトマトがたくさんできたことの喜びを表現している。トマトの実が鈴生りになっている様子を「満員電車」と表現したり、植木鉢の上からの視点でトマトを捉えたりしている。色の変化や「いっぱい、たくさん」という数量感覚を表したり、いろいろな角度、視点からミニトマトを見たりしていることがわかる。

【考察】

4歳児は特に「先生！僕を見て」「僕が見つけたことを知って！」という気持ちが強く、保育者に認めてもらう、共感してもらい喜びを味わいたい時期である。また、言葉が未発達であるので思いを伝える手段として身振り手振りの身体表現が不可欠である。保育者が幼児の表現を肯定的に受け入れることによって幼児の気持ちが安定し、次の活動の意欲につながる。また、絵画表現においては、自分の思いを絵で表現したものを保育者が認め、共感することによって自分の思いが伝わった喜びを感じ、また伝えたいという思いをもつ。そして保育者が様々な視点からの捉え方や豊かな色彩感覚をもって援助することが大切である。

みどころ

ミニトマトの葉が黄色くなった出来事を経験することで、「水をあげすぎではいけない」「お腹を壊す」ということを知り、その後の生長や花・実注目するようになりました。自分の育てているミニトマトへの思いが、身体表現や描画表現などを通してさらに膨らんで、「お顔(ミニトマトの実)に水がかからないようにしないとね」「美味しいお水ですよ」と話しかける姿に結びついています。このような姿から科学する心の成長を読み取ることができます。